談論風発 INTERVIEW

吉井 満隆
YOSHII Mitsutaka

バンドー化学
取締役会長

人と社会を支え、今と未来をつなぐ

現在、神戸のポートアイランドに本社を置くバンドー化学は、1906年の創業以来、自動車・産業機械・農業機械等の伝動ベルト、食品加工や物流の現場等で使われる搬送ベルトなどを製造・販売し、産業用ベルトそしてゴム・プラスチック製品メーカーのパイオニアとして成長してきました。2022年度の事業別収益の比率は、自動車部品事業47%、産業資材事業約34%、高機能ローラなど高機能エラストマー製品事業が約14%、その他が約5%となっています。

現在、収益の約半分を占めている自動車分野は、CASE*をキーワードとする100年に1度の大変革期を迎えています。EVへのシフトが進めば、事業の中核を担っている自動車用ファンベルトをはじめ、エンジン部分に使用されている弊社製品の需要は減少していくことになります。こうした事態を想定し、「事業が好調に推移しているうちに次世代に残せる事業を」と考え、社長在任中の9年間（2013～2022年）、経営資源を投入して新事業の創出に取り組んできました。その成果が「その他5%」に当たる、「医療機器・ヘルスケア機器事業」と「電子資材事業」の2事業です。

弊社には長年培ってきたゴム・樹脂・ウレタンなどの材料技術、さらには加工・接着の技術など、バンドー・テクノロジーとも言えるコア技術があります。そこで、われわれの技術を活用できる事業は何かと検討を重ねてたどり着いたのが上記の2つの領域であり、これらを新しい事業領域としてやっていこうと決めました。2019年には医療機器メーカーをM&Aにより子会社化するという思い切った決断も行い、今ではその会社を核に、弊社の技術と医療機器業界の知見を組み合わせた製品開発に取り組んでいます。表面活性化技術を活用することで、骨形成を促進する作用を持たせた人工骨の再生用材料などはその好例です。

こうした取り組みに加え、次の世代に何が残せるのか、2050年のわれわれにできる社会貢献とは何か、との観点で昨年5月に策定したのが「ビジョン2050」です。「人と社会を支え、今と未来をつなぐBEST PARTNER」というコンセプトのもと、具体的な展開を始めているところです。

私は3年前から関経連の地方分権・広域行政委員会の副委員長を務めています。関経連には、国や自治体の「あるべき姿」を意見発信してきた長い歴史があるものの、なかなか歩を進められていないという懸案があります。確かに懸案ではあるのですが、広域行政にかかわる問題は一気に進められる類のものではありません。今は、次の世代につなげていくために、関西広域連合が一つひとつ実績を作っていく取り組みが大切な時期なのではないでしょうか。公設試験研究機関と連携した「関西広域産業共創プラットフォーム」の有効活用はその一つでしょうし、こうした取り組みを成功させることが広域行政のロールモデルとなり得るでしょう。

弊社が創業以来本拠地とする神戸は、2025年に阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えます。まさにその年、神戸空港は国際チャーター便の受け入れを、さらに2030年には国際定期便の運航開始を予定しています。神戸空港への足でもある、三宮とポートアイランドを結ぶポートライナーは、1981年の開業当初から完全自動無人運転・排気ガスも出さない乗り物として非常に先進的でした。こうした先進性は「神戸らしさ」の一つと言えるでしょう。神戸空港の国際化を契機に再びその気質を呼び覚まし、将来の神戸のまちの活性化につなげていければと考えています。（談）

* モビリティの変革を表す4つの領域「Connected（コネクテッド）」「Autonomous（自動化）」「Shared（シェアリング）」「Electric（電動化）」の頭文字をとったもの。